

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)		-	-
		百貨店（店舗企画）	・12月が予想以上に苦戦したため、これより悪くなることはないと思われる。
		スーパー（企画担当）	・チラシ計画の精度が上がり、市場の動きを捉えたマーケティングで売上げが見込める。
		コンビニ（経営者）	・おでんやファーストフード等の商品の売上が増加するので客単価のアップも見込まれる。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	・現段階における予約状況から推測される今後2～3か月先の客室稼働率は、前年並みに推移することが見込まれるため、今月よりやや良くなると考えられる。
		通信会社（営業担当）	・春先は新規客を獲得できる時期となり売上の伸びは予測されるが、利用料金の値下げが予定されているためそれまでは多少買い控えがあると思われ、大きな伸びは期待できない。
		コンビニ（代表者）	・県経済は安定しているが、慢性的な人手不足が大きな懸念である。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は年末であり、また暑い日が続いているので衣料品関係の売上が良くない。これから先もどうなるか、見通しがつかない。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・年末年始の繁忙期が落ち着いていくが、例年と比べ販売量が大きく変わる要因は今のところ見当たらない。
		観光型ホテル（代表取締役）	・先々の宿泊の予約は、前年より若干少ない程度である。
		旅行代理店（マネージャー）	・今のところ大幅に伸びる要素が見当たらない。
		住宅販売会社（代表取締役）	・建築相談件数は安定しているものの、設計士や現場職人の不足感が強く、これ以上の現場数の増加は難しい。また、来年の消費税の引上げを強く意識して工事契約を急いでいる客が多いという感じは受けない。
		住宅販売会社（営業担当）	・戸建て住宅の建築単価増により、客が建築時期を慎重に検討している様子が見える。
		×	×
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-
		建設業（経営者）	・今月の申込件数が、2～3か月後に契約として反映される。それと、引き合い件数が増えている。
		輸送業（経営企画室）	・先日オープンした大型複合施設含め、目抜き通りの跡地開発による需要増、そして今後見込まれる大型商業施設や新規コンビニの参入、それに対する既存施設の対抗策など、消費増加につながる事象があり継続して良くなっていくと考えられる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今月と同様と見込まれる。
		広告代理店（営業担当）	・県内企業は、好調な県内景気とは裏腹に、先行きの景気に対して、まだまだ不安感を抱いているような声が聞こえる。その結果、販売促進費もやや消極的な傾向にあり、全体としては現状維持が続くように感じている。
		会計事務所（所長）	・客数、売上点数もさほど大きな増減はない。
	食料品製造業（総務）	・2～3か月先はお歳暮商戦後という季節要因があり年間を通して当業界では売上が落ち込む時期である。さらに、昨今の米中貿易戦争の影響、株価の乱高下による消費者の不安心理も加わり消費姿勢が慎重になるとみられる。	

		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島を中心にホテルや量販店の民需や、陸上自衛隊関連工事等の公共工事も増勢ではあるが、基地建設の急増により碎石の生産が追い付かず、離島向けの出荷が抑制されている。
	x	-	-
雇用 関連		-	-
(沖縄)		求人情報誌製作会社（編集室）	・1月は多くの求人が見込まれるが、2月に入ると若干落ち着きを取り戻し多少件数は落ちるとみられる。3月は新年度の前月ということもあり、件数が増加するとみられる。
		人材派遣会社（総務担当）	・年度末に向けた繁忙期から求人は引き続き多く推移し、景気の良い状態が続くとみられる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数が徐々に減少傾向にある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・人材不足が深刻化する懸念が否めない。仕事はあるが人材がいなため、受注できないという声が聞こえてくる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・2019年採用の新卒求人は、ほぼ終盤を迎えており、2020年採用に対する準備の動きへとシフトしてきている。引き続き積極採用を期待しているが景気の観点からは前年と同様の印象を受ける。
		-	-
	x	-	-